

学位論文審査の要旨

学位申請者	門田 園子 比較社会文化学専攻2018年度生		論文題目	デザイン至上主義がもたらした産地の盛衰 -1950年代～1990年代の横浜スカーフ産業研究-
審査委員	主 査:	鈴木 禎宏 准教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	天野 知香 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	新實 五穂 准教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	難波 知子 准教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	菅 靖子 教授 (津田塾大学)		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (人文科学)			<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Design History)			<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本論文は、第二次世界大戦後の横浜のスカーフ産業を対象とし、デザインに対する生産現場の認識がこの産業に及ぼした影響を論じたものである。横浜スカーフについては主に経済学の分野で研究されてきたが、申請者はこうした先行研究を踏まえ、デザイン史の観点から横浜スカーフの歴史と特徴を論じた。具体的には、特許庁に意匠登録された横浜スカーフのデザインや、イギリスの関係諸機関が所蔵する資料を分析することにより、1950年代から1990年代までの横浜スカーフの盛衰を実証的に論じた。

論文は6章で構成される。第1章は1950年代、海外意匠の模倣防止を目的として横浜スカーフの保全登録が始まり、1950年代末から60年代前半に「デザイン」を重視する風潮が横浜で醸成されたことを論じた。第2章は、横浜独自のデザインを創出するため、横浜で様々な組織や制度が整備されたことを論じた。第3章は、特許庁に意匠登録された横浜スカーフを主な調査対象として、1950年代末から60年代前半に最盛期を迎えた横浜スカーフのデザインの傾向を分析した。分析に際しては、スカーフに描かれたモチーフやその構図を、その時代的・文化的背景とともに論じた。第4章は1950年代の「ジャパニーズ・モダン」といったデザイン思潮のもとで、輸出スカーフにおいても日本の「伝統」を意識したデザインが開発されたことを論じた。第5章はイギリスの貿易商社からの注文により、横浜がアフリカにスカーフを輸出していたことを取り上げ、横浜スカーフが旧宗主国と旧植民地を政治・経済・文化的に繋げていたことを明らかにした。第6章は1970年代以降、横浜は輸出向けではなく、国内向けのスカーフ生産に力を入れ、欧米ブランドのライセンス製品を生産したが、このような産業構造が横浜独自のデザインの開発を結果的に妨げ、その後、別の産地がアジアに現れたとき、横浜の国際的な競争力を弱める要因となったことを指摘した。以上を通じて本論文は文化的な豊かさや経済的な利潤を追い求める過程で醸成された「デザイン至上主義」が、日本の代表的地場産業であった横浜スカーフの盛衰に深く関与したことを論じた。

2020年12月19日に開催された第1回審査委員会では、(1)スカーフという、ヨーロッパで始まった服飾が世界的に流通するようになり、その生産・流通・消費に横浜が関わるようになったことを跡付けたこと、(2)生産地である日本側の視点だけでなく、外国の発注者や輸出先の国々の視点からも横浜スカーフを実証的に考察したこと、そして(3)デザインを重視する意識が横浜のスカーフ産業の発展をもたらした一方で、それがまたこの産業の衰退を結果的に招いたことを指摘したことが評価された。その一方、序論と結論を書き直して問題の所在を明確化することや、スカーフのデザイン分析をさらに丁寧に行うことが求められた。2021年2月18日に開催された第2回審査委員会では、修正が適切に行われたことを確認した。2月27日に実施された公開発表会において、申請者は適切な文献・図像資料を用いながら明晰に論文内容を説明し、参加者からの質問に的確に応答した。同日行われた最終試験では、申請者に専門分野についての十分な知見があることが確認された。また、ジェンダーの視点など、今後のさらなる研究の発展について意見交換が行われた。

以上より審査委員会は申請論文を審査員全員一致で合格と判断し、博士(人文科学)、Ph. D. in Design Historyの学位に相応しいものと判断した。